

3. 職員の状況

在籍状況

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
園長	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
主任保育士	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
正規保育士	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16
非正規保育士(常勤)	3	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4
非常勤保育士	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
栄養士	4(1)	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5
看護師	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
事務員	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
非常勤職員(無資格)	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9

4. 職員の業務分担

係	担当者		
プール開き・プール納め	幼： 岩本	乳： 亀井	
お泊り保育	佐藤	松原	
運動会	窪田	菅原	近藤
いもほり遠足・焼き芋会	平山		
ホームカミングデー	澤上	館	
クリスマス	幼： 岩山	乳： 新野	
新年子ども会	近藤	佐藤	
発表会	齋藤(光)	齋藤(麻)	館
ひなまつり・お茶会	幼： 平山	乳： 田村	
卒園式	内山	田村	
地域交流	澤上	小林(和)	新野
みどりの会・親睦会	岡崎	澤上	
園内研修	澤上	田村	
シフト	岩本	田村	
消耗品	岡崎		
教材庫・ホール倉庫	亀井	小林(和)	
写真・誕生カード	窪田	近藤	
絵本	内山・新野・亀井・岩山・平山・松原		
よるカフェ	栄養士	事務所	

5. 保育について

前年度に続き新型コロナウイルス感染症の対策をとりながらの保育を求められる一年となった。日々緊張感を感じながらも、子どもの成長に必要な経験の機会が奪われることがないように留意し、以下のような保育を実践した。

- 1) 乳児クラスは担当制で保育し、愛着関係をしっかり結び、一人ひとりの発達に合ったきめ細やかな援助や、人間関係を広げる土台作りとしての関わりに努めた。
安心した担当保育者との関りを基に、行動範囲を広げて着実に育つ姿が見られた。
- 2) 幼児クラスは自然な姿で遊びや生活の役割が継承され、子ども達自身が互いを認め合いながら関りを深め、一人ひとりの個性が発揮される中で、クラスによる特色の違いも見られるようになった。それぞれの特色を生かし、作品展を開催したり、一冊の絵本から半年以上をかけて表現遊びと粗大製作遊びを融合させて劇遊びを完成させるなど、新たな保育の発展もあった。
- 3) 外部講師による「おはなしかご」「リトミック」は継続して行った。豊かな想像力や表現力が培われるよう、そこで教えてもらったことを日常の保育に継続して取り入れた。特にリトミックでは、リズム遊びやハンドサインが定着し、音階やリズムを体得することで、日常の歌声にも変化が感じられている。発表会では講師と共にその姿を保護者に見てもらえた。
日々の継続的な積み重ねが子どもの力になることを、保育者も実践の中から感じ取ることができた。
- 4) 行事については、対策をとりながら行える方法を柔軟に考え、できる限り実施に努めた。

<主な行事>

- ・ 7月 「5歳児お泊まり保育」
 - ・ 10月 「運動会」 幼児クラスのための参加に変更。
プログラムも短縮したが、当日までの子どもの期待や頑張りは変わることなく、特に年長児は自分の目標を達成する喜びを感じていた。
 - ・ 10月 「4・5歳児芋ほり遠足」
公園での飲食はせず帰園後園庭でお弁当給食に変更。
 - ・ 2月 「発表会」 2～5歳児クラスごと入替制で実施（動画販売導入）
- 5) 発達に合わせた遊具の見直しや季節に合った環境づくり、社会性の育ちや主体的に遊ぶ保育環境を計画的に構成することに努めた。
特に年度後半は、各クラスに5万円の予算をつけていただき、計画に基づく保育実践に向けて、より保育内容や「環境」を考えるきっかけとなった。
 - 6) 児童虐待や心身に苦痛を受けていないか等を常に意識して視診を行った。
家庭支援センターや健康福祉センター等の関係機関との連携を必要とするケースや、家庭的支援を必要とするケースが増えているので、必要な情報は職員で共有し、個人情報への取扱いには十分気をつけた。

6. 食育について

- 1) 幼児クラスは食への興味を育てることを目標に、野菜を育てて味わったり、野菜の皮むき等朝の日常のお手伝いで食材に触れる機会を多く持ち、年齢に応じて米とぎ・炊飯や、カレー作り等のクッキングも積極的に行った。また、栄養士が毎月「栄養のはなし」として栄養バランスや季節の食材、マナーを伝えたり、毎日ランチルームで喫食状況を見ながら関わり、メニュー紹介や展示を工夫することで、栄養士と子どもが身近に関わる姿が増え、メニューの名前から食材や調理法等に興味を持ち質問することもあった。

感染対策として黙食が続いたが、食事の様子から笑顔が消えることはなく、食事の時間は変わらず楽しみの一つとなっている。食への関心がしっかり培われていることを実感できた。

- 2) 乳児クラスは担当保育士と毎日食事することで、その子の生活リズムに合った食事や、細かな変化に配慮しながら必要な援助を行い、楽しい食事に心がけた。また、食材摂取確認票を活用しながら安全かつスムーズな離乳食の提供に努めた。保護者との連携においては、より具体的な提示の仕方や配慮が必要なケースも増えているので、家庭状況に応じた対応を心がけた
- 3) 保護者と栄養士・保育士・看護師の連携を密にし、アレルギーを持つ子どもの誤食がないように十分配慮し、食育活動においても同じ経験ができるように配慮した。
- 4) 毎月の会議で食育を議題にあげることで、食具についての意見交換やランチルームでの対応の確認ができ、栄養士と保育士との連携もとれた。

7. 職員育成と園内外研修

- 1) 感染症対策の緊張が続き、心身ともにとても疲労感がありながらも、前向きに取り組むことができた。日常の保育における課題や疑問は、毎月の乳児・幼児会議で事例を持ち寄りながら検討を行った。
- 2) 保育士の中からわらべうたを学びたいという声があがり、数回にわたって学び、実践に生かした。
- 3) 前年度はコロナウイルスの影響で外部研修の受講は少なかったが、今年度はオンライン研修も受講し、積極的に学ぶことができた。(資料1参照)
- 4) 園内研修は、職種を超えた5グループが一年を通してテーマを決めて学びを深め、年度末にグループ発表を行った。どのグループも充実した発表となり、経験のある職員が中心となるだけでなく、職種を超えて学び合う土壌ができたことは良かった。その他にも2つのオンライン研修を全員が勤務時間を調整して視聴し、意見や感想を持ち寄って学ぶ研修を行った。

8. 防災防犯と安全管理

- 1) 消火訓練・避難訓練は毎月1回、引き渡し訓練は年1回、消防立会いの総合訓練は1回、それぞれ計画通りに実施した。
- 2) 不審者対応訓練を年2回実施した。訓練実施に当たっては、様々な想定について会議内で話し合い、確認した。
- 3) 園内の各場所の安全管理チェックは毎月行い、園内消毒と砂場消毒は年2回行った。
- 4) 新型コロナウイルス感染症の予防対策の徹底に努めた。玩具や共有部分の消毒をこまめに行った。乳児クラスは連絡帳で、幼児クラスは健康観察カードを作成して、日々の健康管理を行った。

<コロナ感染状況>

- ・1歳児・・・1名
- ・2歳児・・・1名
- ・3歳児・・・4名
- ・4歳児・・・3名
- ・5歳児・・・2名
- ・職員・・・3名

- 5) 怪我による受診が3件発生した。

- ・4月 2歳女児 園庭で躓き転倒。額を損傷し3針縫合
- ・7月 3歳男児 ブロック遊び中突然左腕を痛がり受診。肘内障疑い。
- ・1月 1歳男児 散歩中に足が引っ掛かり転倒。上前歯をぶつけ受診。

9. 保護者との関わり

- 1) 運営方針と事業計画を配布し理解を求めた。
また、年2回のクラス保護者会と個人面談も行い、多くの保護者に参加していただけた。
- 2) 子どもの様子をより分かりやすく伝えるため、行事等ではその日の姿だけではなくそこに至るまでの過程を知ってもらえるよう、写真や動画を取り入れて伝え方にも工夫をした。「伝える」「伝わる」ことの難しさも感じながらではあるが、「伝えたい」思いが職員にも高まった。
- 3) 園での様子や子どもの育ちをより理解していただくため、保育参加も再開した。特に前年度入園した保護者には、初めて実際の保育を始めて見ていただく機会となり、いろいろなご意見がいただけた。
- 4) 保護者と保育士との交流の場としておこなっている「よるカフェ」は、実施方法を工夫して12月に1度開催した。前年度は開催できなかったため、再開を喜んでくれる声がとても多く、「よるカフェ」への期待がこれほど大きいことを知ることができた。
- 5) 感染症予防対策として、日々の健康管理や体調不良時の早期対応等のお願いが続き、

感染者の発生時には心配もおかけしたが、常に理解と協力を得られたことはとてもありがたかった。

10. 地域との関わり

- 1) 園庭開放・給食体験等、地域の方への子育て支援活動を企画したが、思うように参加者が集まらなかった。情報発信の仕方や参加しやすい内容等が今後の課題となった。
- 2) 小中学生のボランティアの受入れは見合わせた。
- 3) 保育士・栄養士・看護師等の養成校の実習については、できる限り受け入れた。
(保育：5名 栄養：8名 心理：1名 看護：32名)
- 4) 地域における公益的な取り組みとして、年長児のごみ拾い活動を再開し、地域の一員としての自覚を育む機会とした。
- 5) 世代間交流としての高齢者施設への慰問は再開できなかったが、新たな交流として東京都健康長寿医療センターの読み聞かせボランティア「りぷりんと」とのつながりをもてた。
- 6) 近隣小中学校等、地域と子どもとの直接的な関わりは持てなかったが、小中学校やアイキッズの連絡会等には参加し、そこで得た情報を職員で共有し、就学を見据えた保育を考えることに繋げることができた。

11. 今後の課題

- 1) コロナウイルス感染症対策の負担感があるが、心身の健康を維持しより前向きに働けるよう職場環境や労働環境を整えていく。
 - ・超過勤務の月平均・・・1時間45分
 - ・有給休暇使用平均・・・13日
- 2) 第三者評価を受審した。3年前に受診した時の結果よりも利用者の満足度が上がった。結果は職員にもしっかりと伝え、良い評価を得られた内容は維持できるようにし、改善が必要なことは努力していき、さらなる保育の向上に努めていく。
(資料2参照)

12. 採用・退職について

採用 令和3年4月 正規保育士 岩山 友美

退職 令和4年3月 正規看護師 富田 緑子

(資料1)

研修受講一覧

研修者氏名	研修名	主催	研修日
澤上しのぶ	保育の喜び・そして責任	子どもの文化学校	全6回
近藤慎一	汐見稔幸保育教室	子どもの文化学校	全8回
小林和子	「思い」からはじめる保育環境	子どもの文化学校	全4回
菅家央子	アレルギーや偏食がある子どもへの対応や食育について	東社協保育士	7月8日
富田緑子	保育園の病気とケガ対応	保育サービス課	6月25日
佐藤しのぶ	乳幼児の発達とメディア	保育サービス課	7月1日
松原弥香	表現と人間	子どもの文化学校	全5回
窪田葵	五感を磨くわらべうた遊び	芸術と遊び創造協会	7月28日
澤上しのぶ	中堅職員研修	保育プラザ	
	1. 個人を尊重し、つながりを育む保育とは		11月20日
	2. 個の充実・つながりへの援助と保育実践		12月11日
窪田葵	何を、どこで、どのように、何のために丁寧にしかかわるのか	子どもの文化学校	10月4日
新野香菜	リズム遊び	保育サービス課	9月3日
内山明菜	うたうということは	保育サービス課	9月6日
齋藤麻百合	楽しい運動遊び	保育サービス課	9月9日
菅原恵美子	子どもの足の健康と靴教育	保育サービス課	9月30日
澤上しのぶ	保育におけるリスクマネジメント	保育サービス課	10月4日
平山愛	幼児向け工作	保育サービス課	10月19日
小林和子	保育園職員のメンタルヘルス	保育サービス課	10月20日
齋藤光恵	子どもの発達と食具	保育サービス課	11月4日
舘由佳里	環境教育	保育サービス課	11月17日
小林友紀	調理講習会	保育サービス課	11月25日
田村江津子	職場のチーム力	保育サービス課	12月6日
松原弥香	保育の質向上プロジェクト研修	保育サービス課	12月8日
小林和子	防災研修	保育サービス課	12月13日
岩山友美	板橋区乳幼児期の保育・教育ガイドライン	保育サービス課	12月24日
菅原恵美子	ことばを育てるかかわり方	板橋区子ども発達支援センター	11月24日

<キャリアアップ研修>

研修者氏名	研修名	主催	研修日
小林幸子	保健衛生・安全対策	保育サービス課	全5回
田村江津子	幼児教育	保育サービス課	全5回
岩本美紀	幼児教育	子どもの文化学校	全4回
澤上しのぶ	障害児保育	子どもの文化学校	全4回
佐藤しのぶ	保護者支援・子育て支援	東京都福祉施設士会	全2回
近藤慎一	保護者支援・子育て支援	日本保育協会	8月1日～31日
			10月11日
松原弥香	乳児保育	保育サービス課	全5回
田村江津子	障害児保育	保育サービス課	全4回
佐藤しのぶ	幼児教育	日本保育協会	12月1日～5日
			2月9日
平山愛	乳児保育	日本保育協会	1月～2月3日
			2月25日
澤上しのぶ	乳児保育	東京都民間保育園協会	全3回